

2022 檜山の農業



北海道檜山振興局 産業振興部農務課

1 檜山農業の沿革

1 位置

檜山管内は、北海道の南西部、渡島半島の日本海側に位置し、渡島管内の八雲町熊石地区を挟んで飛び地状になっており、南部4町と北部2町、せたな町沖27kmにある離島の奥尻町の全7町で構成されています。

総面積は2,630km²で佐賀県よりやや大きく、全道83,424km²の3.1%で、14総合振興局・振興局の中で最も面積が小さく、唯一飛び地状となっている地域です。

北部には清流日本一の後志利別川、南部には厚沢部川・天の川などが流れ、その流域は肥沃な農耕地となっています。



2 檜山地域開発のはじまり

檜山地域の開発は早く、約800年の歴史を有しています

文治 5年（1189年）・ 和人定住。藤原泰衡の一族が江差付近に上陸したのが始まりとされている。

亨徳 3年（1454年）・ 武田信広が上ノ国渡来、地域開発開始。

延宝 5年（1678年）・ 松前氏、江差に奉行設置。経済的基幹は鉱産・林産・水産の資源で、北前船により本州の米などと交易されていた。

・ 特に、ニシンは「鯨は魚に非ず松前の米なり」と言われるほど重要視されていた。そのため、ニシンの凶漁は飢饉を招くことから、雑穀類の耕作が始まり、さらに稲作が試みられるようになる。

3 稲作のあゆみ

元禄13年（1700年）・ 江差で新田を耕したのが稲作の起源と言われている。

寛政 2年（1790年）・ 当時の農村として厚沢部川、安野呂と天ノ川筋が記録されている。

明治12年（1879年）・ 天ノ川流域への入植。

明治13年（1880年）・ 乙部姫川への入植。

明治17年（1884年）・ 厚沢部町館への入植。徳島から21戸がせたな町北檜山区へ入植。

明治21年（1888年）・ 鷲の巣への入植。

明治24年（1891年）・ 同志社学生が今金町に入植。その後、後志利別川流域においてめざましく開発が進む。



田植え風景（昭和25年頃）

4 畜産のあゆみ

慶長20年（1615年）・ 馬を飼養。

寛政11年（1799年）・ 牛豚導入で本格的畜産開始。

明治38年（1905年）・ せたな町北檜山区にホルスタイン種が導入され酪農開始。

昭和 2年（1927年）・ ホルスタイン種が今金町に20頭、せたな町瀬棚区に26頭導入。

昭和25年（1950年）・ せたな町大成区に日本短角種導入。その後、江差町、上ノ国町、奥尻町で飼養される。



放牧風景（昭和30年頃）

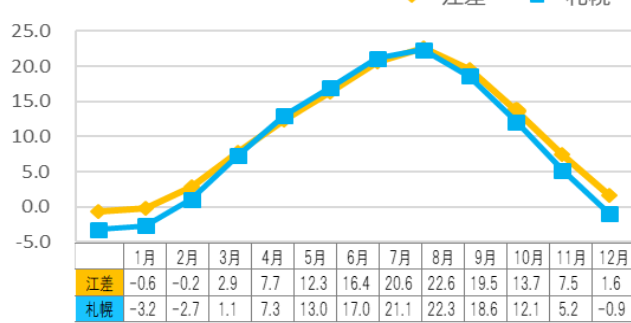
2 農業構造

1 気候

気候は、北上する対馬海流の影響を受け、江差の平年の平均気温は10.3℃と道内でも気温が高く、寒暖の差が少ない地域です。

また、海岸部は冬期間の季節風が強く、10月から3月の平均風速は6.2m/秒と道内でも有数の強風地帯です。

月別平均気温（℃）



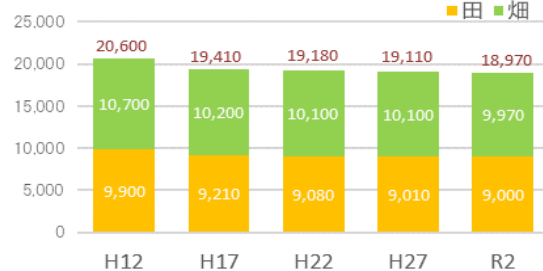
資料：気象庁（1991年～2020年平年値）

2 経営耕地面積

経営耕地面積は約19,000ha、全道の0.2%であり、振興局では最も小さい面積です。

平均経営耕地面積は16.3haと後志、渡島、石狩に次いで全道で4番目に小さい面積となっています。

耕地面積の推移

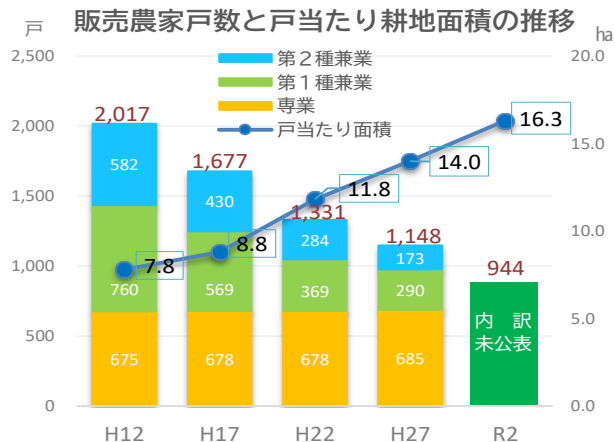


資料：農林水産省「2020年農林業センサス」

3 農家戸数

令和2年の販売農家戸数は、944戸で過去20年間で53%減少し、直近の5年間の減少割合は18%と全道平均の15%を上回っています。

専業農家による規模拡大が進み、1戸当たりの経営耕地面積は増加しています。

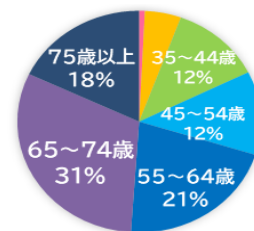


資料：農林水産省「2020年農林業センサス」

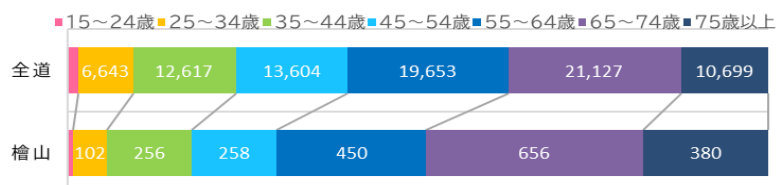
4 基幹的農業従事者数

地域農業の主体となる基幹的農業従事者数は平成12年で3,282人でしたが、令和2年には2,118人と過去20年間で大幅に減少しています。

60歳以上が5割を超え、平均年齢も60.9歳(R2)と全道で最も高齢化が進んでいます。



年齢別基幹的農業従事者数



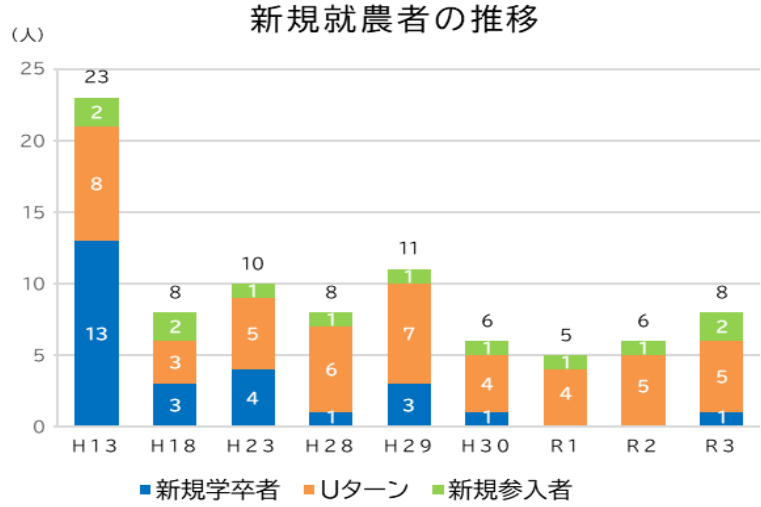
資料：農林水産省「2020年農林業センサス」

2 農業構造

5 新規就農者

檜山管内の新規就農者は近年1桁台で推移し、令和3年では8名となっています。Uターンの就農者が大半を占めているのが特徴です。

また、新規就農の促進を図るため、平成24年度から農業次世代人材投資事業(旧青年就農給付金事業)が制度化され、研修生及び新規就農者に対して支援を行っています。

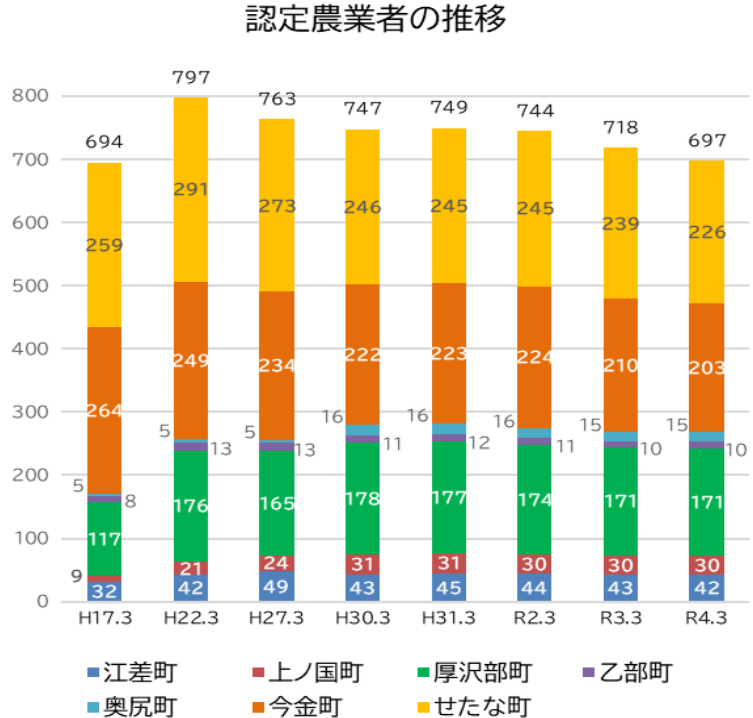


資料: 檜山振興局調べ

6 認定農業者

認定農業者は、農業経営基盤強化促進法に基づき市町村から「農業経営改善計画(5年後の経営目標)」の認定を受けた農業者で、地域農業の担い手に位置づけられています。

管内の認定農業者数は平成21年の799戸をピークに令和4年3月は697戸と減少傾向にあります。



資料: 檜山振興局調べ

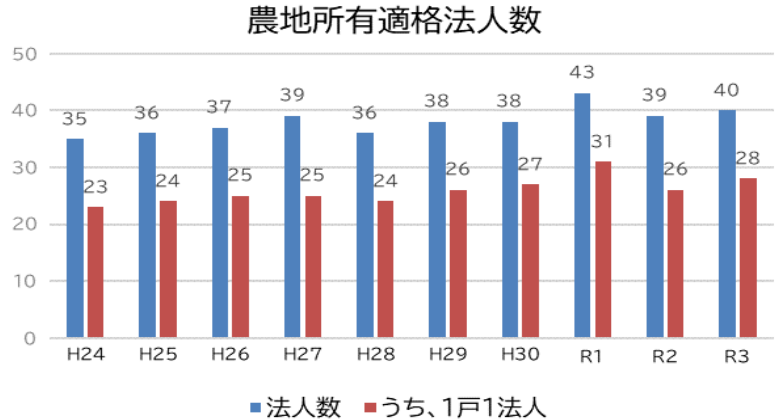
2 農業構造

7 農地所有適格法人

農地所有適格法人は、経営の合理化や、生産性の向上を図るだけでなく、地域の中核的な担い手として重要な役割を担っていくと期待されています。

近年、大規模法人化の動きも見られますが、一戸一法人(家族経営型)の占める割合が多くなっています。

法人数は、ここ数年横ばい傾向であり、令和3年度は40法人となっています。

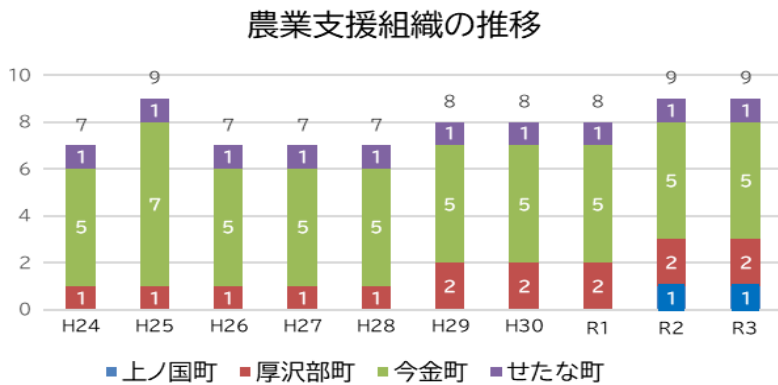


資料: 檜山振興局調べ

8 農業支援組織

近年、経営規模の拡大、高齢化による労働力不足の解消が課題となる中で、農業支援組織であるコントラクターに対する期待は大きくなっています。

管内では、現在9組織が運営されています。

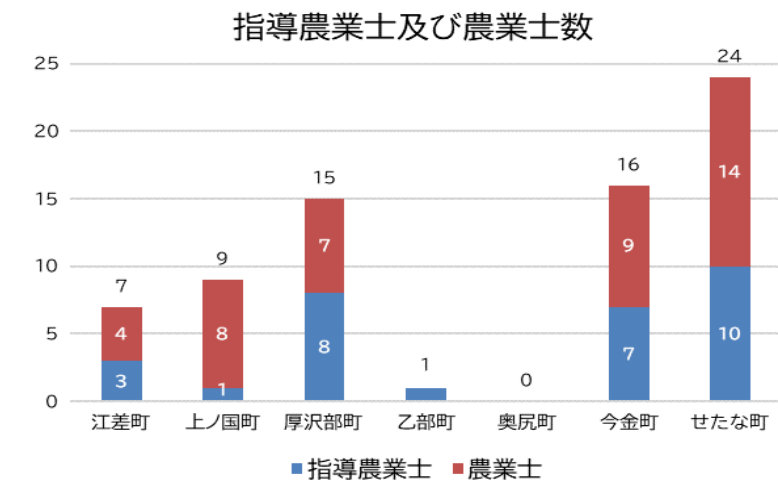


資料: 檜山振興局調べ

9 指導農業士・農業士

道では、地域の担い手の育成や地域農業の振興等に関する助言・協力を行う農業者を地域農業の担い手として「北海道指導農業士」に、経営改善や地域農業の振興などに積極的・意欲的に活躍される農業者を「北海道農業士」として認定し、その活動を支援しています。

管内では、令和5年3月現在、北海道指導農業士30名、北海道農業士42名の方が認定されています。



資料: 檜山振興局調べ

2 農業構造

10 農村女性グループ等

管内の主な農村女性グループ(令和4年3月時点)

市町村名	グループ名	主な活動
檜山管内	檜山農村女性グループネットワーク “花埋み”	各種研修活動等 ※休止中
江差町	JA新はこだて江差支店女性部	特産物加工販売、農産物販売
	JA新はこだて江差支店女性部 すずらん会	各種研修活動等
	えさし水土里の会	農産加工販売(漬物、みそ、かたこもち)、 各種研修活動
上ノ国町	さくら会	簿記記帳による経営改善、労働報酬の督促活動
	ばっけの会	農産物直売、加工販売
厚沢部町	JA新はこだて厚沢部支店女性部	各種研修活動、味噌食品加工販売
乙部町	乙部町漬物研究会	漬物加工研究
八雲町熊石	夢菜来(ゆめさいくる)	特産野菜を活用した特産品開発と販売研究
せたな町	カントリーマザー倶楽部	アイスクリーム等の加工品販売、 地元イベントへの協力、各種研修活動
	きらめく農村女性の会	酪農・畑作等の視察、 農畜産物の加工学習を通じた交流等
	ふぁーみんぐCOWSUN'S	各種研修、視察等
	JA新はこだて若松女性部	各種研修、視察等
	JA新はこだて瀬棚支店女性部	乳製品の加工

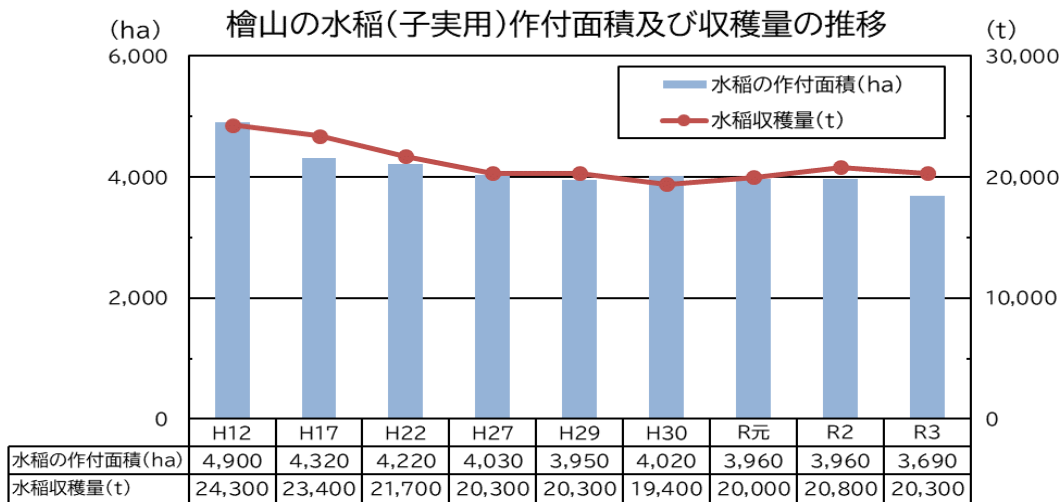
資料: 檜山振興局調べ

3 農産

1 稲作

令和3年度における水稲(子実用)の作付面積は3,690 ha(全道の3.8%)、収穫量は20,300 t(全道の3.5%)です。

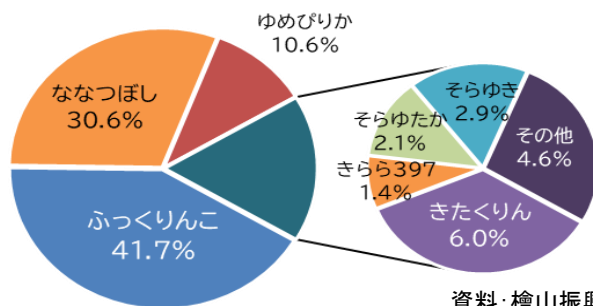
令和3年産の作柄は、作況指数は「108(良)」です。



資料:農林水産省「作物統計調査」及び農林水産省北海道農政事務所「農林水産統計 水稲の収穫量(北海道)」

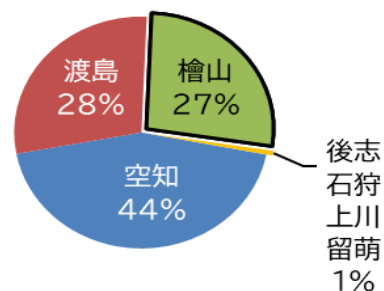
品種は「ふっくりんこ」、「ななつぼし」が主体であり7割以上を占めます。また、平成25年頃からは減農薬栽培が可能な「きたくりん」の栽培が徐々に増えてきています。

檜山におけるR3年産うるち米
作付面積の割合



資料:檜山振興局調べ

R3年産ふっくりんこ
作付面積の割合

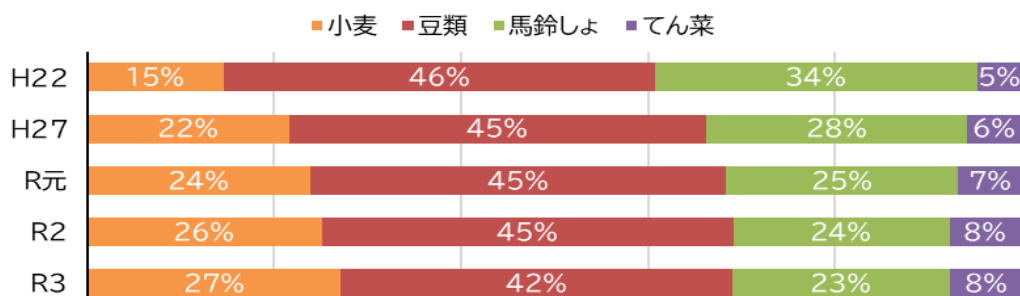


2 畑作

畑作物は、馬鈴しょや豆類を中心に作付けされており、作付面積はここ数年減少しています。この他に、小麦やてん菜などが輪作体系の一部として作付けされており、作付面積はここ数年増加しています。

高齢化や労働力不足などの問題や収益性の面などから、特定の作物の作付偏重による輪作体系の乱れが見られますが、連作障害の防止、安定供給の要望に応えるためにも適正な輪作体系を維持することが必要です。

檜山における主要畑作物の作付け割合

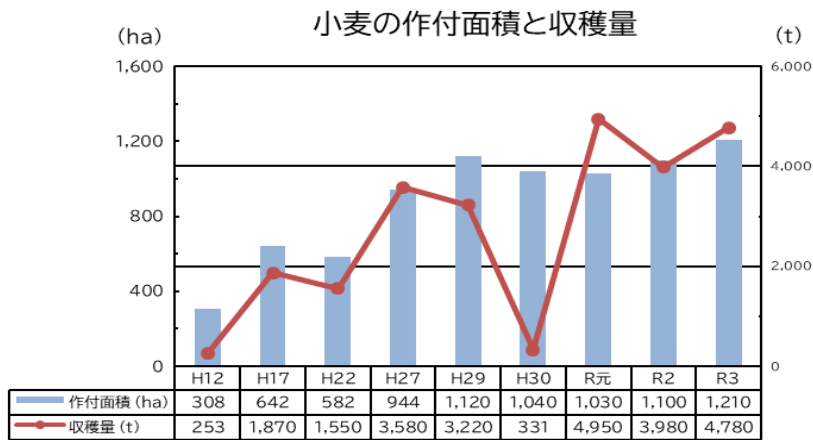


資料:北海道農林水産統計年報

3 農産

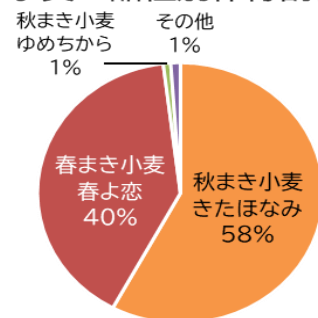
● 小麦

小麦の作付面積は、ここ数年で1,000haを越え、その要因として、労働力不足などの影響で省力化が可能な麦類の作付けが増えているからだと考えられます。
また、令和元～3年度は、天候が良く、平年を上回る収穫量となりました。



資料：北海道農林水産統計年報

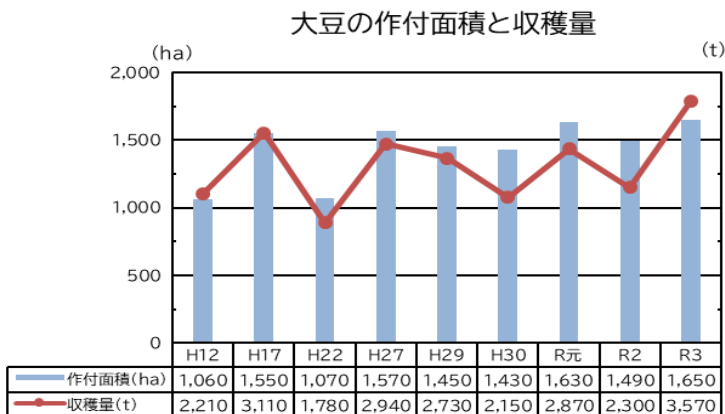
小麦の品種別作付割合



資料：檜山振興局調べ(R3年産)

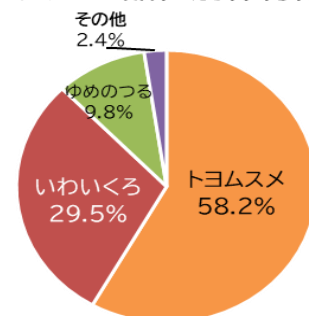
● 豆類

豆類は輪作体系に含まれているため、ここ数年は一定の作付面積が保持されています。
品種別で見ると、大豆はトヨムスメ及びいわいくろで約9割、小豆はとよみ大納言及びほまれ大納言で約8割を占めています。

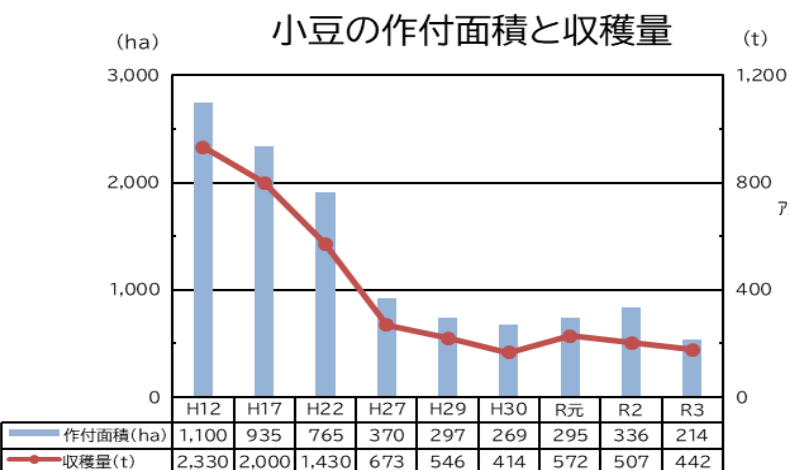


資料：北海道農林水産統計年報

大豆の品種別作付割合

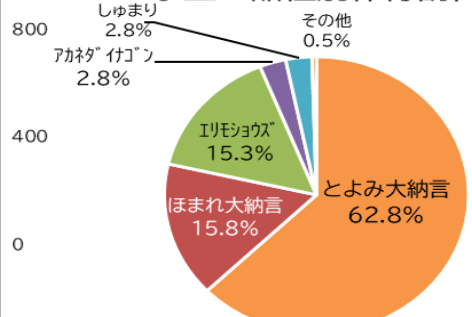


資料：檜山振興局調べ(R3年産)



資料(H7～H27)：北海道農林水産統計年報(※小豆はH27で公表終了)
資料(H28～R3)：檜山振興局調べ

小豆の品種別作付割合



資料：檜山振興局調べ(R3年産)

3 農産

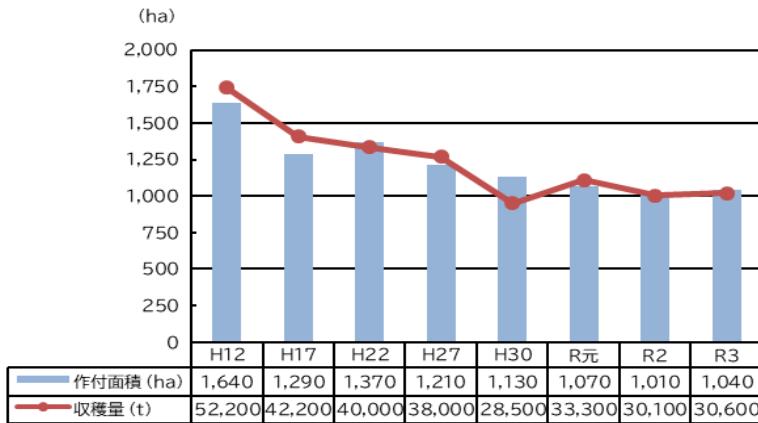
● 馬鈴しょ

馬鈴しょは、南部地域を中心に厚沢部町が発祥地とされる「メイクイン(あっさぶメイクイン)」、北部地域では男爵薯が栽培され、特に今金町の「今金男しゃく」は全国ブランドとなっています。また、令和元年には、「今金男しゃく」が地理的表示(GI)保護制度に基づく新たな登録産品として登録されました(道内では、「夕張メロン」、「十勝川西長いも」に次ぐ3例目)。

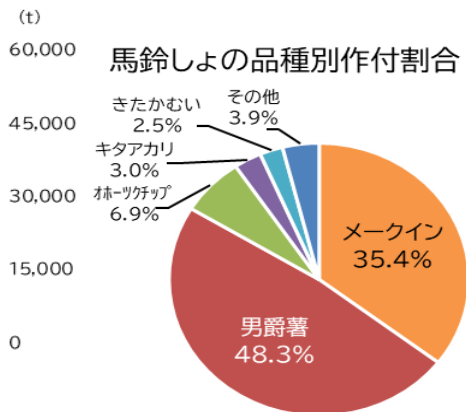
檜山地域では、温暖な気候を活かし、収益性の高い時期の7~8月に出荷する早出し栽培が盛んです。

檜山管内の馬鈴しょは、一定の作付面積と収穫量を確保しています。

馬鈴しょの作付面積と収穫量



資料：北海道農林水産統計年報

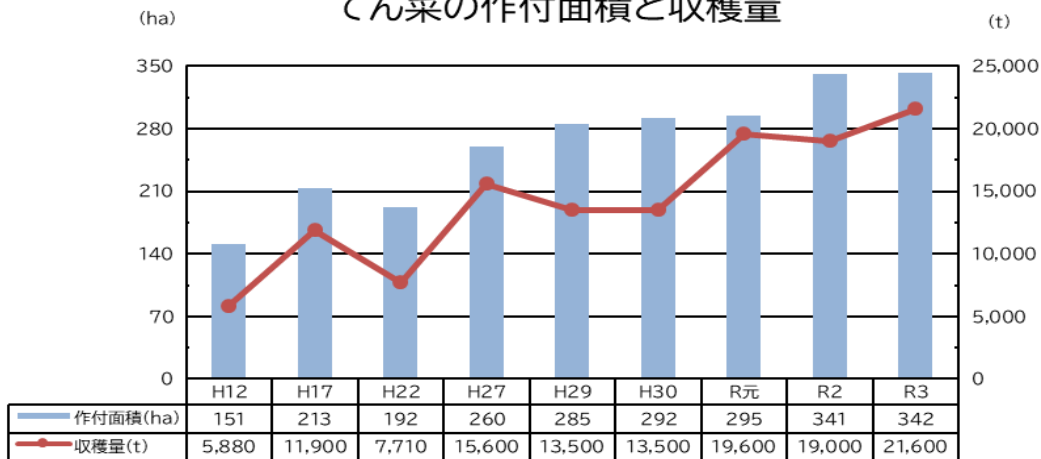


資料：檜山振興局調べ(R4年産)

● てん菜

作付面積は増加傾向にあり、収穫量はここ数年で1番多くなっています。毎年、一定程度面積を確保しており、輪作体系を支える上で欠かせない作物となっています。てん菜糖は家庭用として使用されるほか、菓子類の原料として用いられています。

てん菜の作付面積と収穫量



資料：北海道農林水産統計年報

3 農産

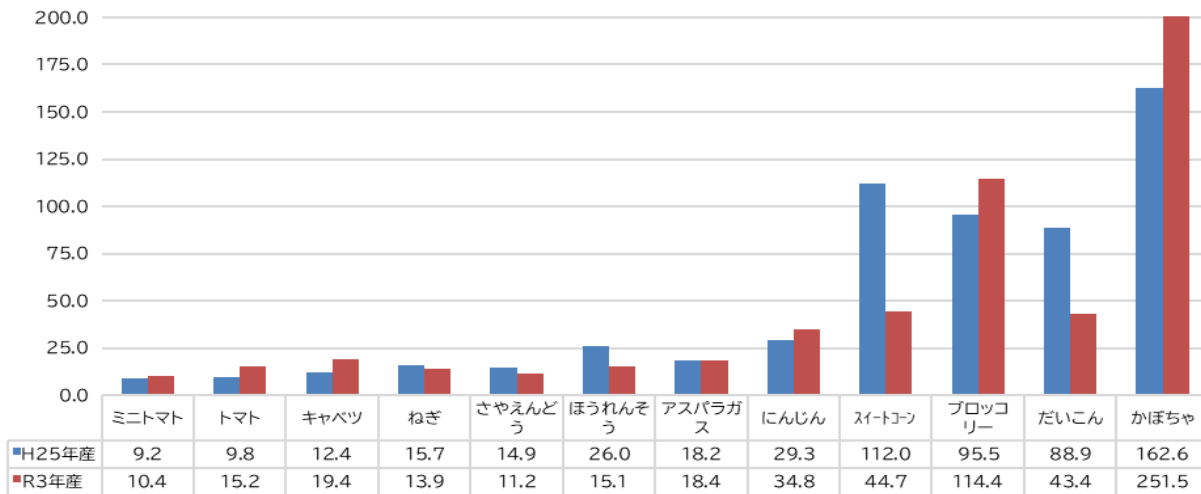
3 園芸

● 野菜

かぼちゃ、だいこん、ブロッコリーなど、土地利用型の露地野菜が多く作付けされており、立茎アスパラガス、ほうれんそうなどの施設園芸野菜や、道内でも有数の産地であるさやえんどうなどが特徴的です。

町別の主な野菜は、江差町(かぼちゃ、ブロッコリー、アスパラガス)、上ノ国町(さやえんどう、にら、ブロッコリー)、厚沢部町(かぼちゃ、だいこん、スイートコーン、ブロッコリー、アスパラガス)、乙部町(ブロッコリー、かぼちゃ、アスパラガス)、奥尻町(アスパラガス)、せたな町(ブロッコリー、ほうれんそう、スイートコーン)、今金町(にんじん、だいこん、ブロッコリー、ミニトマト)などが作付されています。

管内の主な野菜の作付面積(ha)



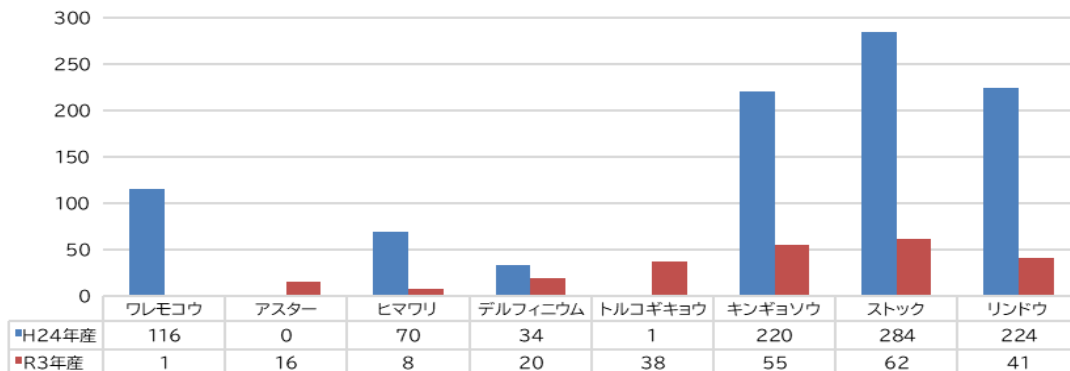
資料: 檜山振興局調べ

● 花き

花きは、切花を中心に作付が行われており、品種別の作付面積ではストック、キンギョソウ、リンドウ、トルコギキョウの4種類で全体の約8割を占めています。

管内の切花は、江差町(リンドウ、ストック)、厚沢部町(リンドウ、トルコギキョウ)、せたな町(ストック、キンギョソウ)などで作付されています。

管内の主な花きの作付面積(ha)



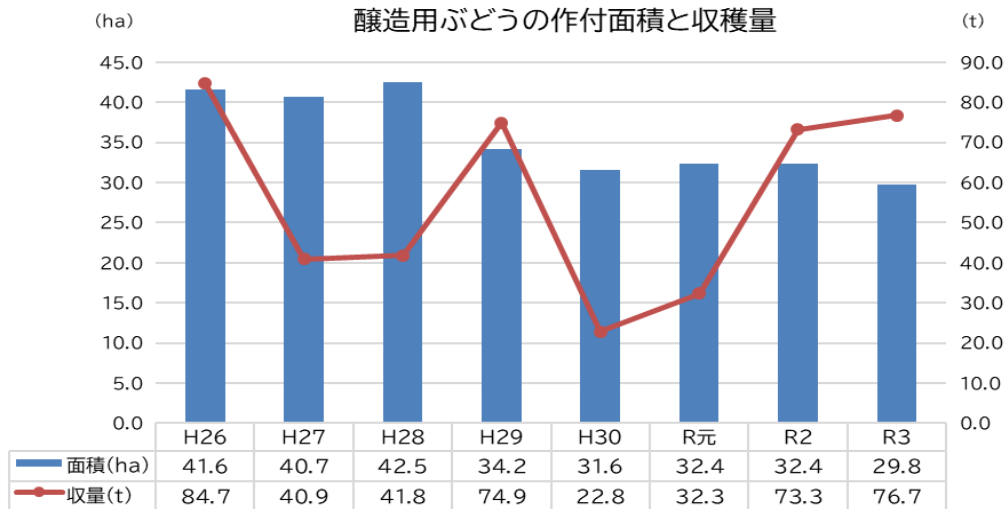
資料: 檜山振興局調べ

3 農産

4 果樹

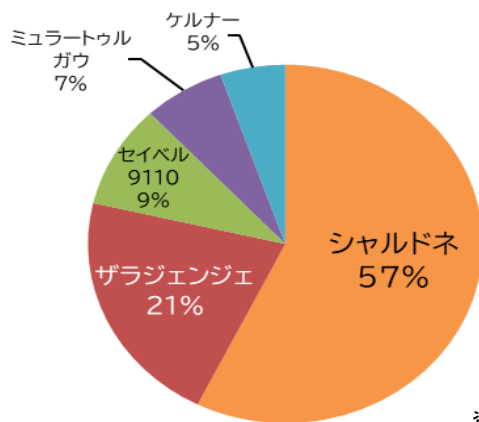
● 醸造用ぶどう

檜山管内の醸造用ぶどうの栽培面積は、ほぼ横ばいとなっていますが、令和3年度から上ノ国町が新たな産地として醸造用ぶどうの定植を行っており、今後、期待されています。平成30年及び令和元年産の収穫量は、天候不順の影響もあり、少なくなっています。

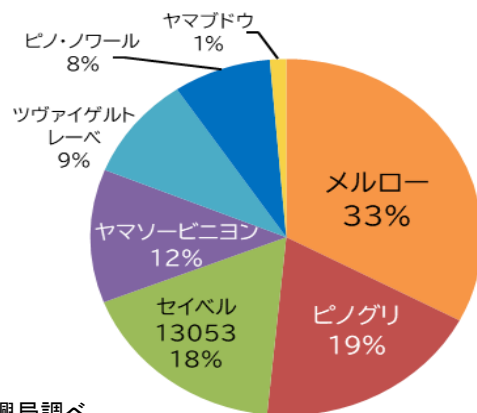


資料: 檜山振興局調べ

醸造用白ぶどうの品種割合



醸造用赤ぶどうの品種割合



資料: 檜山振興局調べ

管内のワイナリー



(株)奥尻ワイナリー/OKUSHIRI WINERY

札幌酒精工業(株)/富岡ワイナリー

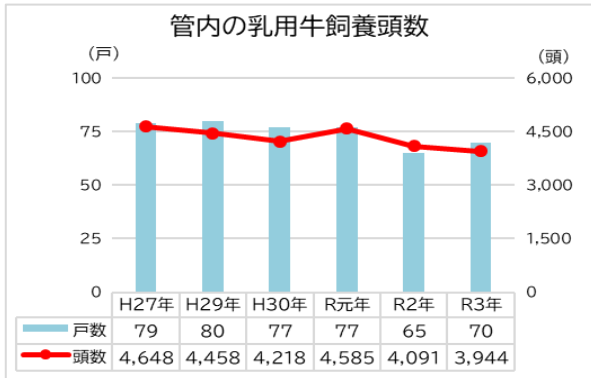
上ノ国開発(株)/上ノ国ワイナリー

4 酪農・畜産

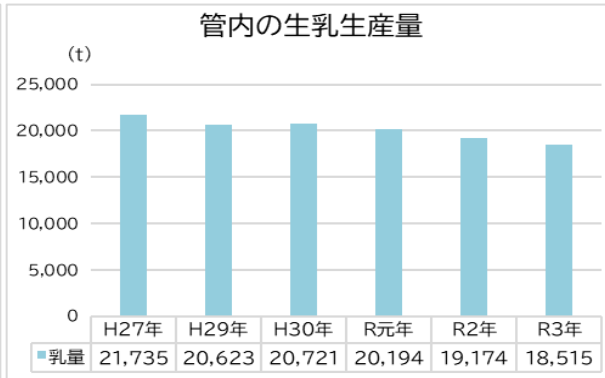
1 酪農

令和3年の飼養戸数は70戸、飼養頭数は3,944頭となっており、1戸あたりの飼養戸数は約56頭となっています。

令和3年の生乳出荷量は、18,515tと前年より3%減少しています。



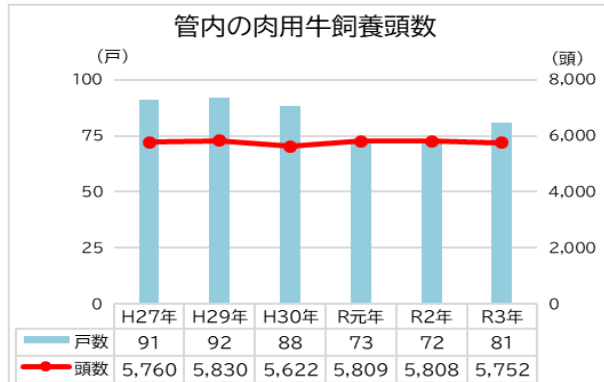
資料: 檜山振興局調べ



資料: 檜山振興局調べ

2 肉牛

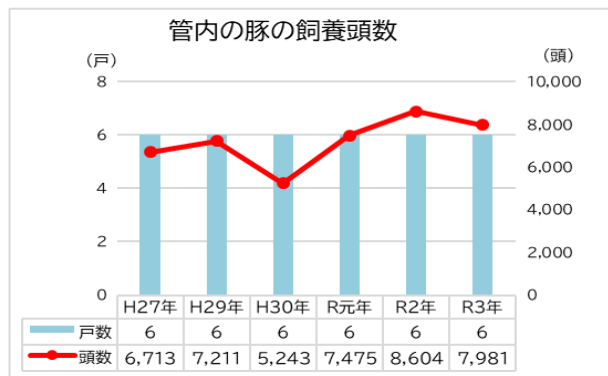
令和3年の飼養戸数は81戸、飼養頭数は5,752頭となっており、1戸あたりの飼養頭数は約71頭となっています。



資料: 檜山振興局調べ

3 豚

令和3年の飼養戸数は6戸、飼養頭数は7,981頭となっており、1戸あたりの飼養頭数は約1,330頭となっています。



資料: 檜山振興局調べ

4 乳業加工施設

管内の乳業工場は11工場あり、主にアイスクリーム、ナチュラルチーズの製造が行われています。

市町村名	開設者または工場の名称	主な製造品目
せたな町	ラブリー カウ(村上経子)	アイスクリーム
	桜井 明雄	プリン
	大津牧場ミルク茶房「ひそっぷ」	アイスクリーム、ヨーグルト、菓子、ナチュラルチーズ
	村上牧場ミルク工房「レプレラ」	ナチュラルチーズ
	オークラファーム	菓子
	ヨーグルト工房Baw	ヨーグルト
	わかかけ岩((株)マウニール)	プリン
	株式会社 平川牧場	アイスクリーム
	牧場の山カフェ	アイスクリーム
	CHEESE DOM	チーズ
江差町	小林牛乳	牛乳

資料: 檜山振興局調べ

トピックス～ ひやまスマート農業の推進 ～

檜山振興局では、地域の実情に即したスマート農業を推進するため、基盤整備事業と連動した環境整備や地元関係機関及び企業と連携した最新技術の実証試験を行っています。

令和4年度は、地域の特産であるハウス立茎アスパラガスの省力化に向け、自動かん水システム導入による実証試験を実施したほか、比較的導入しやすいスマート農業技術等を紹介する研修会を開催しました。

また、国費事業を活用したスマート農業機械の導入を支援しました。

今後も地域の課題を踏まえた新たな農業モデルやスマート農業を推進・提案していくこととしています。



◀ハウス立茎アスパラガスへの自動かん水導入実証試験



▶「スマ農×GAP研修会」でスマート農業機材を紹介

5 食の安全・安心

1 有機農業



有機農業は、環境への負担を低減する農業生産方式であり、環境保全型農業を先導する役割を担っています。

北海道では有機農業の推進に関する法律(平成18年法律第112号)に基づき、北海道食の安全・安心条例(平成17年3月31日北海道条例第9号)等に定める有機農業の推進の考え方に沿って「北海道有機農業推進計画」を策定し、有機農業の普及推進に努めています。

◆有機JAS認定事業者

市町村	認定事業者等
江差町	(株)自然農法
せたな町	岡崎ファーム
	農園おりざ
	大口農場
	村上牧場
今金町	野中信成牧場
	津田農園

2 6次産業化

北海道では農林漁業者と、2次産業としての製造業、3次産業者としての小売業等との連携を図り、地域の資源を活用して新たな付加価値を生み出す6次産業化の取組を推進しています。

◆6次産業化加工業者

町名	事業者名	品目名
江差町	(有)グリーンネット・恵	ジャム
	JA新はこだて江差支店女性部江差支部	黒豆茶
	(株)ヴーム	黒豆茶
上ノ国町	たんぼぼ会	かたこもち(べこ餅)
	(株)MORIFARM	カットブロッコリー
厚沢部町	(株)ノアール	焼酎
	JA新はこだて厚沢部営農センター	甘納豆、黒豆茶
	JA新はこだて厚沢部支店女性部	味噌、漬物
	あずまや(東谷農園)	ジャム、乾燥野菜、味噌
奥尻町	木村未紀博	豆漬け、山ごぼう佃煮、こんにゃく
	(株)奥尻ワイナリー	ワイン
せたな町	農業生産法人(株)なな実	フライドポテト
	(有)秀明ナチュラルファーム北海道	味噌、きな粉、上新粉、豆腐、納豆
	村上牧場 ミルク工房レブレラ	チーズ、アイスクリーム、洋菓子
	大津牧場直売所 ミルク茶房ひそっぷ	ヨーグルト、ソフトクリーム等
	小野綿羊牧場	羊肉、羊毛
	オークラファーム(自然派耕房)	ベジタブルクッキー・ケーキ、ミルクドーナツ
	よーぐると工房Baw	ヨーグルト
	(有)高橋畜産	ハンバーグ、ソーセージ等
(株)ひらかわ牧場	アイスクリーム	
今金町	(有)うまいバイこだわり工房	紫蘇ジュース、黒豆ジュース、無添加味噌

5 食の安全・安心

3 地産地消

北海道では、平成9年から生産者団体、経済団体、消費者団体などで構成する「北のめぐみ愛食運動道民会議」を設置して、「地産地消」、「食育」、「スローフード運動」を総合的に推進する「愛食運動」を官民一体となって展開しています。

◆愛食レストラン認定店



市町村名	店名	認定年
江差町	ラッキーピエロ江差入口前店	H23.7
	イタリア風居酒屋 パレス	H25.6
厚沢部町	中国料理 彩風塘	H22.12
今金町	日本料理 わたなべ	H18.12

地産地消の観点にたち、生産から流通・加工・消費の関係者が一体となって輸入小麦から道産小麦への利用転換(麦チェン)が促進されるよう、道産小麦を使用した商品を積極的に販売・提供する店舗である麦チェンサポーター店の登録拡充や麦チェンロゴ使用推進などを実施しています。



◆麦チェンサポーター店

市町村名	店名	認定年
江差町	イタリア風居酒屋 パレス	H25.6
せたな町	わっかけ岩	H31.2